

## 第2章 各教科等における学習評価

### 2(1) 小学校 社会

単元(題材)における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえ、以下のように指導と評価を進めることが考えられる。

小学校の社会科においては、学習指導要領に示された「内容のまとまり」は、複数の内容に分かれ、その内容ごとに単元を構成するものがほとんどである。そこで、「内容のまとまりごとの評価規準」をそのまま活用するのではなく、単元ごとに単元構成や学習過程に沿った具体的な評価規準を作成していくことになる。

ここでは、

第4学年(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」  
「廃棄物を処理する事業」

単元を例として、その評価例を示す。

※第4学年内容(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」の内容のまとまりは、「飲料水、電気、ガスを供給する事業」と「廃棄物を処理する事業」の2つの単元で構成できる。そのうち「廃棄物を処理する事業」について例示する。

#### ① 単元(題材)の目標を作成する

年間指導計画に基づき、当該単元で扱う学習指導要領の指導事項を確認し、単元の目標を設定する。

具体的には、「内容のまとまり」ごとに示されたうち、当該単元に関わる「知識及び技能に関する内容」と「思考力、判断力、表現力等に関する内容」と、当該学年の「学びに向かう力、人間性等」の育成に関する目標に示された「養う態度」を基に設定する。

第4学年内容(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」の内容のまとまりは、「飲料水、電気、ガスを供給する事業」と「廃棄物を処理する事業」の2つの単元で構成できる。

このことを踏まえて、本単元の「単元の目標」を以下のように設定することができる。

廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業の果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

(下線)・・・知識及び技能に関する内容

(波線)・・・思考力、判断力、表現力等に関する内容

(二重下線)・・・主体的に学習に取り組む態度に関する内容

#### ② 単元(題材)の評価規準を作成する

「知識・技能」の評価規準の設定の仕方

社会科の「知識・技能」は、知識と技能を関連付けて「～を調べ、～まとめ、～理解している」などと捉えて評価することが大切である。

そこで、学習過程に沿って、

①調べて、必要な情報を集め、読み取り、社会的事象の様子について具体的に理解しているか

②調べたことを文などにまとめ、社会的事象の特色や意味などを理解しているか

という学習状況を捉えるよう、評価規準を作成する。

評価場面によっては、知識を中心に学習状況を捉える場面や、技能を中心に学習状況を捉える場面があり得ることに留意することが大切である。

### 「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方

思考・判断・表現については従前通り一体のものとして評価規準を作成する。

そこで、学習過程に沿って、

- ①社会的事象に着目して、問いを見出し、社会的事象の様子について考え表現しているか
  - ②比較・関連付け、総合などして社会的事象の特色や意味を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現しているか
- という学習状況を捉えるよう、評価規準を作成する。

単元によっては「社会への関わり方を選択・判断する場面」が設定されていない場合も考えられるため「考えたり、(中略) 選択・判断したり」と示していることに留意し、単元の学習活動に応じて適切に文言を選びながら評価規準を設定することが大切である。

### 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方

主体的に学習に取り組む態度については、知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向けて粘り強い取組を行おうとする側面と、粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面について、「主体的に学習に取り組む態度」として評価規準を作成する。

そこで、学習過程に沿って、

- ①社会的事象について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしているか
  - ②よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしているか
- という学習状況を捉えるよう評価規準を作成する。

#### ○学習指導要領の内容の記載

- (1) Aについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身につけることができるよう指導する。
- ア 次のような知識や技能を身に付けること
    - (ア) Bを理解すること
    - (イ) Cなどで調べて、Dなどにまとめること
  - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること
    - (ア) Eなどに着目して、Fを捉え、Gを考え、表現すること

#### ○評価規準作成の基本形



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①EなどについてCなどで調べて、必要な情報を集め、読み取り、Fを理解している。	①Eなどに着目して、問いを見出し、Fについて考え表現している。	①A (に関する事項) について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている
②調べたことをDや文などにまとめ、Bを理解している。	②○と○を(比較・関連付け、総合など)してGを考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。 ※発展を多角的に考えようとする ※選択・判断しようとする

このことを踏まえて、本単元の「単元の評価規準」を以下のように設定することができる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料などで調べたりして、必要な	①処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見出し、廃棄物の処理のための事業の様子につい	①廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決

<p>情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。</p> <p>②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。</p>	<p>て考え表現している。</p> <p>②ごみや下水などの廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良い生活環境を関連付けて廃棄物の処理のための事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、ごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。</p>	<p>しようとしている。</p> <p>②学習したことを基にごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちが協力できることを考えようとしている。</p>
---	--	--

### ③ 指導と評価の計画を作成する

各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階（時間）でどの評価規準に基づいて評価するかを決定し、実際の学習活動を踏まえて評価方法を計画する。

時	ねらい	主たる学習活動	評価方法と【評価規準】
1	<p>たくさんのごみのゆくえについて話し合い、学習問題をつくることができるようにする。</p>	<p>○家や学校等から出るたくさんのごみのゆくえについて話し合い、学習問題をつくる。</p>	<p>内容やノートの記事内容から、「処理の仕組みや再利用などに着目して、問いを見出しているか」を評価する。 【思一①】</p>
2	<p>学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てることができるようになる。</p>	<p>○学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てる。</p>	<p>発言内容、ノートの記事内容や学習計画表などから、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態一①】</p>
3 ・ 4	<p>見学・調査したり資料で調べたりして、清掃工場が燃えるごみを処理する様子を調べることができるようにする。</p>	<p>○清掃工場が燃えるごみを処理する様子を見学・調査したり各種資料を活用したりして調べる。</p>	<p>ノートや見学カードなどへの記事内容、学習計画表などの記録などから「必要な情報を集め、読み取り、燃えるごみを処理する仕組みなどについて理解しているか」を評価する。 【知一①】</p>
5	<p>資料を活用し、リサイクルセンターが燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する様子を調べることができるようにする。</p>	<p>○リサイクルセンターが燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する様子を各種資料を活用して調べる。</p>	<p>ワークシートの記事内容や発言内容、学習計画表などから「必要な情報を集め、読み取り、燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する仕組みなどについて理解しているか」を評価する。 【知一①】</p>
6	<p>見学・調査したり資料で調べたりしたことをまとめ、話し合い、学習を見直すことができるようにする。</p>	<p>○これまで調べてきたことをまとめ、さらに調べるべきことについて話し合う。</p>	<p>ノートの記事内容や学習計画表などから「これまでの学習を振り返り、さらに調べるべきことを見出し、見通しをもって追究しようとしているか」を評価する。 【態一①】</p>
7	<p>市（区町村）が行っているごみ処理問題の解決策を調べ、計画的な取組について考えることができるようにする。</p>	<p>○市（区町村）がごみ処理問題を計画的に解決している様子を調査したり各種資料を活用したりして調べ、市の取組について考える。</p>	<p>ノートの記事内容などから「現在に至るまでに衛生的に処理する仕組みが作られ、計画的に改善されてきたことについて考え表現しているか」を評価する。 【思一①】</p>
8	<p>調べたことをもとに、学習問題について話し合い、ごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良い生活環境を関連付け、ごみの処理のための事業の果たす役割を考え表現することができるようにする。</p>	<p>○学習問題について話し合い、ごみを処理する事業の果たす役割について考える。</p>	<p>ノートの記事内容や発言内容などから、「学習したことを基にごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良い生活環境を関連付け、ごみの処理のための事業の果たす役割を考え表現しているか」を評価する。 【思一②】</p>
9	<p>調べたことをもとに、学習問</p>	<p>○学習問題について調べたことや話し合</p>	<p>ノートの記事内容などから、「廃棄</p>

	題について図や文にまとめることができるようにする。	ったことに基づいて、ごみ処理の仕組みや経路、人々の協力関係などについて図や文にまとめる。	物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていること、それらは生活環境の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。【知-②】
10	様々な立場からごみを減らすための呼びかけをしていることについて考え、ごみを減らすために自分たちに協力できることは何か考え、表現することができるようにする。	○様々な立場からごみを減らすための呼びかけをしていることについて話し合い、ごみを減らすために自分たちにできることは何か考え、発表し合う。 ○ごみを減らすために自分たちにできることについてノートに自分なりの考えをまとめる。	ノートの記述内容や発言内容などから、「学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価する。【思-②】 ノートの記述内容から、「単元の学習を振り返り、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしているか」を評価する。【態-②】

\* 本手引き第1章で示したように、「単元の評価として記録に残す」場面を精選して計画を立てる。もちろん記録に残さない単位時間においても、学習状況を捉え指導に生かすことや、児童が自らの学びをふり返って次の学びに生かすための指導と評価は行う。

\* 本単元では、単元のまとまりを見通し、目標の実現状況が児童の反応から顕著に見られる場面を「評価したことを記録に残す場面」として明示した。（「指導と評価の計画」の網掛け部分）。

#### ④ 実際の指導及び評価

児童一人一人の学習状況を把握して、指導に生かすためには、評価規準に照らして、「どんな評価資料から、どんな具体的な姿を捉えるのか」という評価方法を明確にしておく必要がある。

そのことを「指導と評価の計画」では学習状況を具体的に捉えるために「～（評価資料）から、『～しているか』を評価する」という記述でまとめている。

『～しているか』という姿をあらかじめ具体的に想定しておくことで、「努力を要する」すなわち「～していない」と評価せざるを得ない児童への指導の手立てが明確になる。

例えば、本単元では、

例：清掃工場の見学・調査活動（3・4/10 時間）

評価資料	具体的な姿	観点
ノートや見学カードなどへの記述内容	「燃えるごみの処理の仕方について、必要な情報を集め、燃えるごみの処理の仕組みについて理解している」	「～調べ、～まとめ、～理解している」という知識・技能の観点

#### ⑤ 観点ごとに評価を総括する

評価を行う場面や頻度の精選を踏まえ、単元を通してそれぞれの観点の実現状況が把握できる段階で、評価した結果を記録に残し、総括的な評価を行う。

本単元では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」については、それぞれ「知-②」「思-②」において行った評価結果を重視している。それは、最後の評価場面における評価結果は、継続的に指導を積み重ねた結果の学習状況であるからである。

「主体的に学習に取り組む態度」については、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしている「主体的に問題解決しようとする態度「態-①」と、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている「態-②」という2つの態度について評価することになる。そこで、それぞれの主旨を踏まえて評価をすることから、評価結果が2つ以上の場合、A→AをA評価、C→CをC評価とし、双方の側面を一体的に見取りつつも、双方の側面を積極的に評価するという考えから、このような評価としている。

<参考資料>

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校)』（国立教育政策研究所）